

他交通との乗り換え方法

LRTの導入は、単に新しい路面電車を走らせるだけではなく、LRTと鉄道やバス、地域内交通などの様々な交通機関が相互に連携した、円滑で利便性の高い公共交通ネットワークを構築することが目的です。

このため、LRTと各種交通手段との乗り換えについては、だれもが利用しやすく、スムーズで抵抗なく快適に行えるなど、利用者の視点に立ち検討を進めています。

1. バスとの乗り換え

- 地域を面的にカバーするバスと東西の軸となるLRTを有効に結びつけることが重要です。そのため、バスとLRTについては、対面式での乗り換えによりスムーズに移動できるようにするなど、利用しやすい施設の整備が必要です。

【利用しやすい乗り換えのための配慮】

- 移動距離が短く、バリアフリーでスムーズな移動ができること
- 雨天時でも濡れることなく、快適に待てること
- 時刻表、接近情報、待ち時間、混雑度などLRTとバスの情報が明示されていること

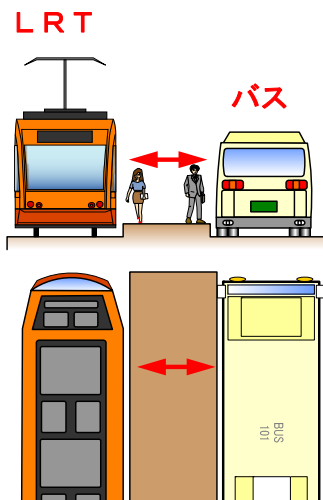


図 対面式での乗換イメージ



廿日市市役所前駅（広島電鉄）

図 対面式での乗換え事例

こんな使い方①

私は宇都宮市に住んでいる1児の母です。
デパートに買い物に行くときは、バスとLRTを使います。
乗り換えは、バスとLRTが同一のホームでバリアフリーだから、ベビーカーでも抵抗無くスムーズにできました。
これなら、マイカーで行くより安心・安全です。

2. 自動車との乗り換え

- 中心部の交通渋滞の緩和や環境への配慮から、郊外のLRT停留場付近に「パーク・アンド・ライド」のための駐車場を整備し、LRTと自動車を連携させることが重要です。

【利用しやすい乗り換えのための配慮】

- (1) パーク・アンド・ライド駐車場へ、アクセスしやすいこと
- (2) 駐車場利用料金を含む運賃の設定等により、利用しやすいこと
- (3) 既存駐車場や沿線大型ショッピングセンターと連携すること



ストラスブール(フランス)

こんな使い方②

東京まで通勤している会社員です。駅まではマイカーを使っていましたが、駅近くの駐車料金は高いので、駅から徒歩15分の場所に借りていました。LRTが導入されて、郊外のパーク・アンド・ライド駐車場を利用すると、渋滞に遭う機会が減って、クルマを降りてすぐにLRTへ乗り換えて宇都宮駅に行けるから、無駄な時間が無くスムーズに通勤できるようになりました。

3. 自転車との乗り換え

- 身近な交通手段である自転車とLRTが連携することは、都市の移動性を向上させることにつながります。LRTの整備に合わせて、「サイクル・アンド・ライド」のための駐輪場等の整備が必要です。

【利用しやすい乗り換えのための配慮】

- (1) 停留場付近に駐輪できること
- (2) 適切なルールを作り、自転車の車内への持込みができること
- (3) レンタサイクルを活用できること



岩瀬浜駅 (富山ライトレール)
図 駐輪場の設置事例



フランス ストラスブール
図 駐輪場の設置事例

こんな使い方③

私は、清陵高校に通う学生です。滝谷町の家から学校までの13キロを約1時間かけて自転車で通っていました。LRTが導入されてからは、家から近い停留場に整備された駐輪場に自転車をとめ、LRTに乗り換えて通っています。雨の日は、停留場までバスを使うので天気の心配がありません。また、車内では本を読むなど時間を有効に使えるようになって、楽しく通学しています。